



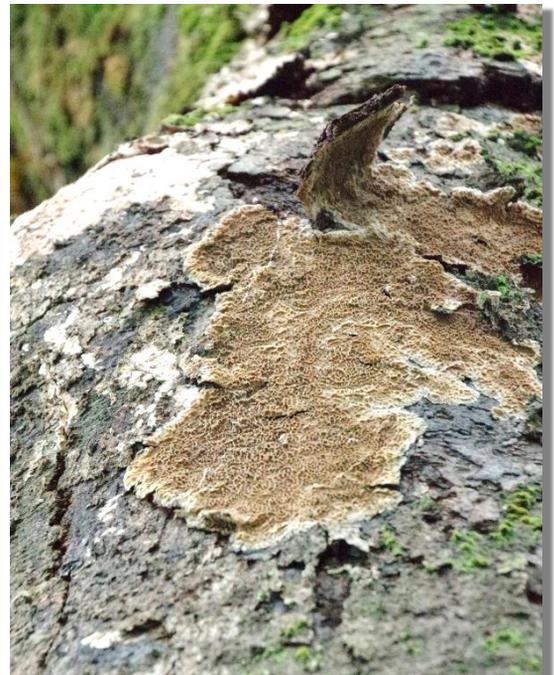
二宮の「玉泉寺」に市指定天然記念物である大きなエノキがあります。神奈川県西多摩郡二宮村の時代には、立川からもこの木が見えたと聞きます。遠方からの帰り道の道しるべとして地域の方に親しまれてきた木なのでしょう。

しかし、老木となった今、木の傷みが目立つようになっています。葉の茂りも少なく、見た目にも衰退傾向にあることが分かります。幹には、チャアナタケモドキなどの菌類もみられ、グズグズになった木部には、たくさんのカブトムシの幼虫が生息していました。木が腐って堆肥状になっていたのです。

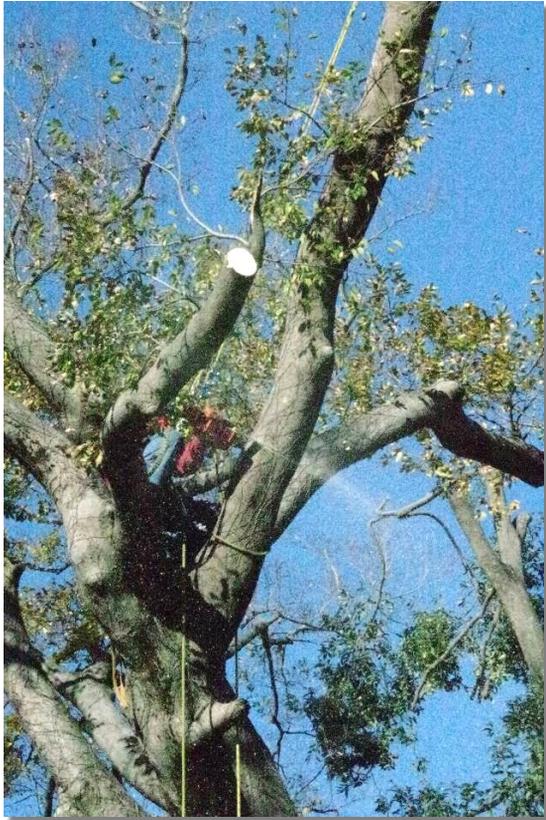


根株周辺にも腐朽がみられたため、長く伸びた枝が風であおられると耐えられないのではと心配していました。

実際、昨年10月1日の台風で大枝が裂け落ち、被害が出ました。そこで、木を保全するための剪定をし、根株の腐りを取り去り、防腐処理による処置を行うことになりました。

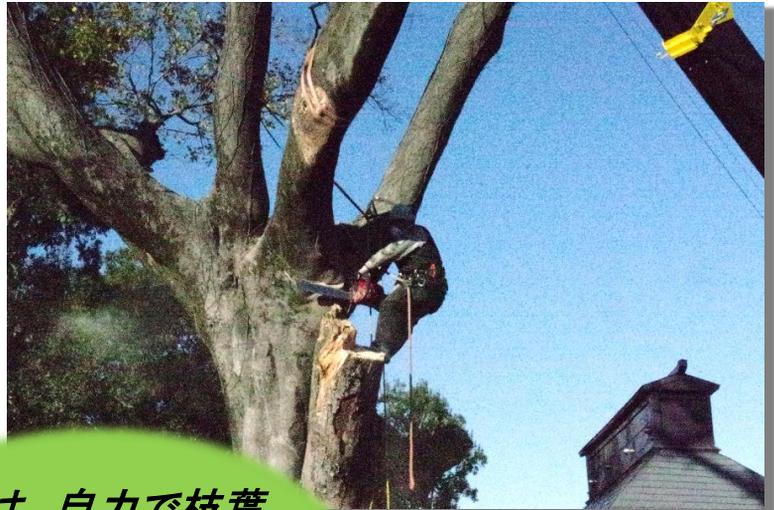


よみがえれ！ 二宮ランドマークのエノキ



多摩川の段丘の上に位置するこのエノキは、強風にあおられることが想定されるため、枝を透かすように、長く伸びた枝の切り詰め剪定を行いました。切断面には防腐処理を行いました。市販の防腐剤は明るい色なので、切り口が目立ってしまうため、防腐剤に墨を混ぜて切断面に塗布しました。さらに、長く伸びた枝の枝折れや落枝事故を防止するために専用のナイロンロープで互いの枝を結び、支えるようにしました。

これらの処置は、樹勢回復を図るとともに落枝事故等を予防することにもなります。これからも市の天然記念物として安全に育つように処置を行いました。



後は、自力で枝葉を伸ばし、樹勢が回復するのを信じて待ちます。

